

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：企業物価（2005年2月）

発表日：2005年3月10日(木)

～ ヘッドラインは高めだが、目先鈍化の見方変わらず ～

(No. J - 134)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 石井博子

TEL: 03-5221-4549

		国内企業物価												輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		総平均				工業製品				需要段階別(国内品)							
		前年比		前月比		前年比		前月比		前年比		前月比		前年比		前月比	
				連鎖方式						中間財		最終財					
				前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比
03年	1Q	▲ 0.9	0.0	▲ 1.3	▲ 0.1	▲ 0.7	0.1	3.8	▲ 0.5	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 2.2	▲ 0.6	▲ 6.4	▲ 1.1	0.5	0.6
	2Q	▲ 1.1	▲ 0.4	▲ 1.5	▲ 0.5	▲ 1.1	▲ 0.5	1.4	▲ 1.3	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 2.4	▲ 0.7	▲ 3.1	0.4	▲ 1.2	▲ 1.6
	3Q	▲ 0.7	0.1	▲ 1.1	0.0	▲ 0.7	▲ 0.2	1.1	0.7	0.1	0.2	▲ 1.9	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 1.2	2.2	▲ 0.2
	4Q	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 0.2	3.7	3.8	0.1	▲ 0.4	▲ 1.4	0.0	▲ 6.4	▲ 4.6	▲ 4.9	▲ 3.7
04年	1Q	0.1	0.5	▲ 0.4	0.4	▲ 0.4	0.5	6.7	3.3	0.6	0.9	▲ 1.0	▲ 0.2	▲ 3.9	1.6	▲ 2.8	2.8
	2Q	1.0	0.5	0.4	0.3	0.8	0.8	5.7	▲ 2.2	2.1	1.4	▲ 0.8	▲ 0.5	▲ 3.3	0.9	3.9	5.2
	3Q	1.7	0.7	0.9	0.5	1.5	0.5	6.7	1.7	3.7	1.7	▲ 1.2	▲ 0.6	▲ 0.8	1.4	6.3	2.1
	4Q	1.9	0.1	1.0	▲ 0.2	2.3	0.5	2.3	▲ 0.4	4.3	0.2	▲ 1.2	0.1	2.8	▲ 1.1	9.5	▲ 0.8
04年	1月	0.0	0.2	▲ 0.5	0.1	▲ 0.6	0.2	6.6	▲ 0.2	0.3	0.4	▲ 1.0	▲ 0.1	▲ 4.6	0.5	▲ 2.6	0.8
	2月	0.0	0.2	▲ 0.4	0.2	▲ 0.4	0.3	7.1	▲ 2.7	0.5	0.4	▲ 1.0	▲ 0.1	▲ 4.3	1.1	▲ 3.8	1.0
	3月	0.2	0.2	▲ 0.3	0.1	▲ 0.2	0.3	6.3	▲ 1.2	0.8	0.6	▲ 1.2	▲ 0.3	▲ 2.7	1.3	▲ 2.0	2.3
	4月	0.6	0.2	0.1	0.1	0.4	0.3	5.7	▲ 2.1	1.7	0.6	▲ 1.1	▲ 0.2	▲ 5.3	▲ 2.0	▲ 0.4	0.8
	5月	0.9	0.0	0.4	0.0	0.8	0.1	6.0	▲ 0.6	2.2	0.2	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 1.2	3.5	6.7	3.9
	6月	1.5	0.3	0.7	0.2	1.3	0.2	5.4	0.5	2.6	0.3	▲ 0.4	0.2	▲ 3.4	▲ 1.6	5.4	▲ 0.5
	7月	1.6	0.4	0.9	0.3	1.4	0.2	8.4	2.6	3.0	0.8	▲ 0.8	▲ 0.2	▲ 2.3	0.7	4.9	▲ 0.1
	8月	1.7	0.1	0.9	0.0	1.5	0.1	8.3	▲ 0.2	3.2	0.2	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 1.1	0.9	5.3	1.1
	9月	1.8	0.1	1.0	0.1	1.8	0.2	5.0	▲ 1.4	3.6	0.3	▲ 0.9	0.0	0.9	▲ 0.1	8.7	1.4
	10月	2.0	0.0	1.1	▲ 0.2	2.3	0.3	4.0	0.4	4.3	0.2	▲ 1.1	▲ 0.2	4.1	0.1	11.6	▲ 0.8
	11月	2.0	0.1	1.0	▲ 0.1	2.3	0.1	2.8	▲ 0.5	4.5	0.3	▲ 1.2	▲ 0.1	2.5	▲ 1.8	9.5	▲ 1.2
	12月	1.8	▲ 0.1	0.9	0.0	2.2	▲ 0.2	1.3	1.3	4.5	0.0	▲ 1.5	▲ 0.2	1.8	▲ 0.6	7.4	▲ 1.5
05年	1月	1.3	▲ 0.3	0.3	▲ 0.4	1.8	▲ 0.2	▲ 0.9	▲ 2.3	3.8	▲ 0.2	▲ 1.8	▲ 0.4	0.6	▲ 0.6	5.7	▲ 0.8
	2月	1.3	0.2	0.2	0.1	1.6	0.1	▲ 1.3	2.3	3.5	0.1	▲ 1.6	0.1	1.0	1.5	7.6	2.8

(出所) 日本銀行調査統計局

概要 ～予想を上回る高めの伸び～

05年2月の国内企業物価は前年比+1.3%と前月と同じ伸びとなり、市場予想の同+1.1%を上回るやや高めの結果となった。

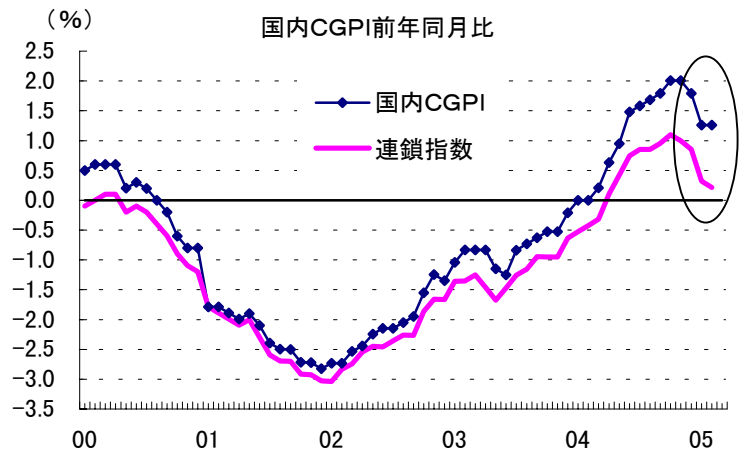
一方、各品目のウェイトを毎年更新することでより実態を反映していると言われる連鎖指数は、前年比+0.2%と前月の同+0.3%より伸びが低下している。

前年比ベースの上昇率を押し上げたのは、農林水産物である。これまで大幅な押し下げ要因となっていた米類のマイナス幅が縮小したことや、鶏卵や肉類など食料用畜産物の上昇などが影響した。

一方で工業製品について見れば、前年比+1.6%と前月の同+1.8%より伸びが鈍化しており、前年比ベースで企業物価の上昇率が鈍化傾向にあるとの見方を大きく変えるものではないと判断される。

2月は原油価格が再び上昇傾向へと向かっているほか、非鉄金属などについても年末年始の落ち着きから一転して上昇してきている。こうした国際商品市況の影響は企業物価にも反映されており、業種別では非鉄金属、石油石炭製品などが前月比で上昇している。ただし、これらの業種についても、昨年の急速な上昇からはベースダウンしており、前年比で見た上昇率は2月も鈍化している。

一方、化学製品やプラスチック製品については、引き続き前月比・前年比ともに上昇が続いた。これらの



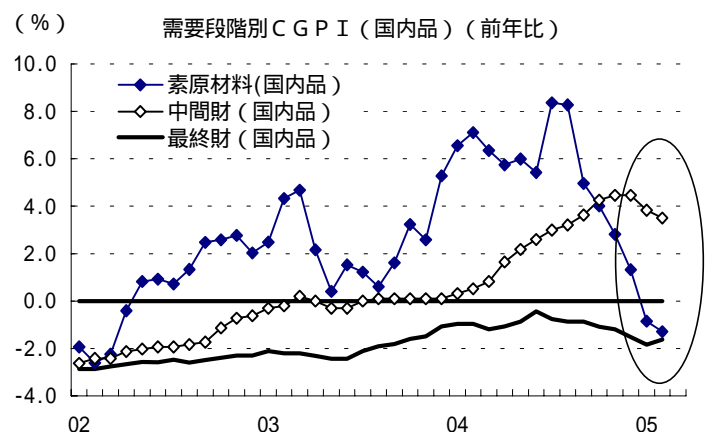
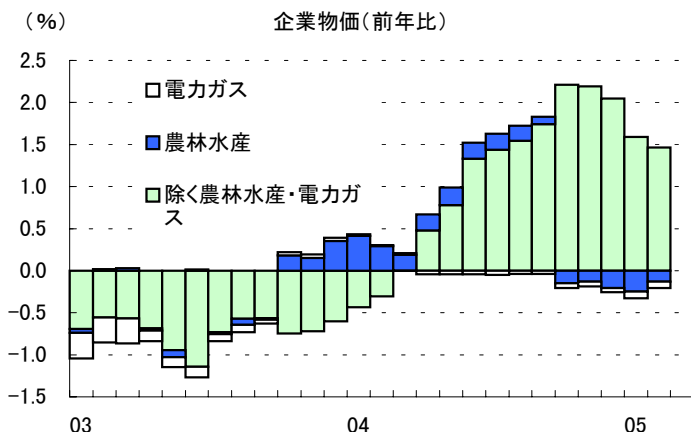
業種は、これまでの原油高を受けて価格転嫁をじわじわと続けている模様である。

需要段階別動向 ～素原材料は上昇するも、中間財の鈍化続く～

需要段階別に見ると、輸入品を含む素原材料は前年比+11.2%と前月より伸びを加速させているが、国内品については前年比 1.3%と2ヶ月連続のマイナスとなっている。素原材料は原油等の市況変動の影響を受けてはいるものの上昇圧力は昨年ほどの勢いはなく、前年比ベースでは目先緩やかな鈍化が続くとの見方を維持する。原油や鉄鋼、非鉄金属などの国際商品市況については、世界経済の拡大を受けて今後も需給が逼迫した状況が続き、05年度後半にかけて上昇ペースが速まる可能性がある。当面は昨年末から年初にかけての市況の落ち着きなどの影響もあって、比較的落ち着いた動向が続くが、年度後半には再び川上からの上昇圧力は高まる可能性があるだろう。

中間財については、輸入品・国内品ともに前年比ベースで伸びが鈍化傾向にある。これまでの素原材料価格の上昇を受けて、需給がタイトな鉄鋼や化学、プラスチックなどでは価格転嫁が続いてきたが、昨年末にかけて素原材料価格の落ち着きを受けて、価格転嫁には一服感がみられている。今後、需給が再びタイト化してくれば、一層の価格転嫁が進む可能性があるものの、年度前半については比較的落ち着いた動きとなるだろう。

最終財（国内品）については前年比 1.6%と1月よりマイナス幅が小幅縮小した。米類などの農林水産物のマイナス幅が縮小したことに加え、資本財や耐久消費財などでもマイナス幅の拡大に歯止めがかかった。最終財の需給は軟調な状況が続いているが、ハイテク関連財の調整や年末にかけての消費の落ち込みに持ち直しの兆しがあることが好影響をもたらした可能性がある。ただし、依然として最終財の価格下落トレンドには大きな変化なく、当面上昇に転じる見込みは低いと言えよう。



今後の動向 ～目先鈍化続くも年度後半は再び加速の可能性～

商品市況が足元で再び上昇へと転じており、世界経済の拡大が続くことで市況は高止まりすると見られるものの、上昇ペースについては昨年ほどの勢いとはならないと考えられる。また、日本国内では生産活動の回復基調が再び明確化するの7-9月期前後となる可能性が高い。こうしたことから、川上の物価上昇や企業の価格転嫁ペースも幾分鈍化せざるをえず、企業物価上昇率は目先低下が続くと予想される。ただし、年度後半から06年度にかけて国内外景気の拡大ペースが加速してくれば、素原材料面からの上昇圧力が再加速し、価格転嫁進捗動向による企業収益への影響が懸念されるといった問題が再びクローズアップされる可能性が高いと言えよう。